佐賀県

みんなで読もう　オススメ本

佐賀県立図書館
こころざしの森から

ボンドを使って絵を描く画家
冨永 ボンドさんの オススメ本！

第14回

このコーナーでは、県内の著名人がおすすめする児童書の魅力を、直筆の推薦文とともに紹介します。

くれよんのくろくん

僕は、黒いボンドを使って絵を描く画家です。黒という色の持つ力をとても大切にしています。この絵本には、黒が作ることのできる彩りが書かれてて、嬉しくなりました。色と色をつなぐ黒、まさに、ボンドアートの概念そのものです。No failure in Art。アートに失敗はない！

『くれよんのくろくん』　作・絵／なかや みわ　童心社

たいくつしていたくれよんたち。ある日、箱をとびだしたきいろくんは、まっしろな画用紙をみつけクルクルッとチョウを描いておおよろこび！次つぎとほかのみんなも集まって、絵ができあがっていきます。けれど、くろくんだけは、きれいに描いた絵を黒くされてはたまらないと、仲間に入れてもらえません。そこへ…。ひとりひとりがちがった個性をもつ大切ですてきな存在であることが、お話を通して小さな子どもたちにも伝わります。

あつかったらぬげばいい

悩んだ時、この本を開いてみて欲しい心がすっ…と軽くなって、悩みなんかどうでも良くなって、あっどうしようもない悩みの解決法ってもしかしたら今はとりあえず、忘れることなのかもしれないなって、おもうことができるはずです。悩んだら、この本を読めば良い！

『あつかったらぬげばいい』
作・絵／ヨシタケ シンスケ　白泉社

「ヘトヘトにつかれたら」「ふとっちゃったら」「だれもわかってくれなかったら」「せかいがかわってしまったら」…。子ども、大人、おじいちゃんのさまざまな疑問に痛快に答える！大人も子どもも楽しめる、ヨシタケ式心を緩める絵本。

しろとくろ

娘が2歳の時に、一番よろこんで笑っていた、擬音系の絵本です。読む人によって、読み聞かせ方がぜんぜん違うんだろうな――と思いながら、僕はありったけの感情を込めて読んでいました（笑）　色は白と黒の2色だけ、デザインもシンプルなので、ページをめくる楽しさを伝えることができる、素敵な絵本だと思います。

『しろとくろ』　作／新井 洋行　岩崎書店

しろとくろがぐにゃーとのびたり、ちぢんだり。ぼんとはじけて、しーんとなって、ぽつぽつ、ざーざー、最後は、お顔がならんでぽん！まるであそんでいるみたい！白と黒、という色は究極のコントラスト。これは赤ちゃんが大好きな世界を表した絵本です。

冨永ボンドさんってどんな人？

2014年に多久市に移住し、巨大アトリエ「ボンドバ」を創設。「つなぐ、つくる」を創作テーマに、世界で唯一、木工用ボンドを使って作品を描く画家として、国内外で活躍されています。ボンドアートと呼ばれる独自の画法を確立し、その作品を活かして、医療・福祉の分野やまちづくりに貢献されています。

佐賀県立図書館「こころざしの森」では、このコーナーで紹介した児童書と推薦文を展示しています！

［問い合わせ先］佐賀県立図書館　電話 0952-24-2900　FAX 0952-25-7049

※「こころざしの森」の「森」の字は、3つの本で構成した創作漢字です。